

僧帽弁疾患（僧帽弁閉鎖不全症、僧帽弁狭窄症）

肺から酸素を取り込んだ血液が心臓に戻ってくる部屋は左心房です。その後、左心室へ送り出され、全身へ拍出されますが、その左心房と左心室の間にあるのが僧帽弁です。

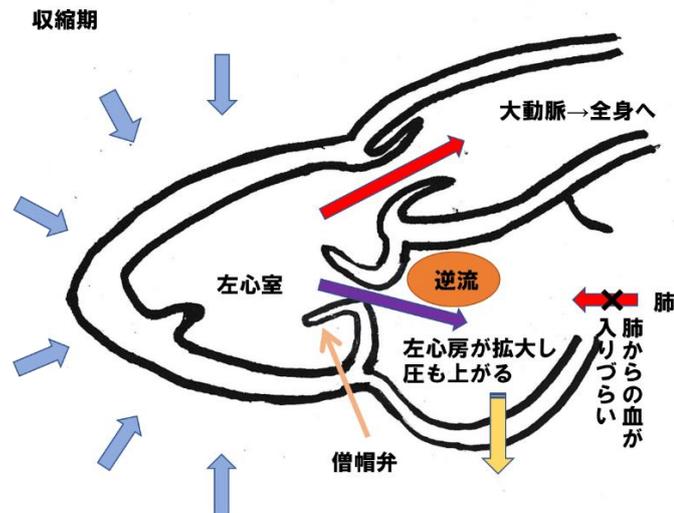
僧帽弁閉鎖不全症；左心室が収縮する際に僧帽弁は閉鎖し、血液の逆流を防いでいますが、その弁が壊れてしまい、左心室から左心房へ血液が逆流してしまいます。僧帽弁狭窄症と同じように左心房に血液がたまっていくため、肺うっ血、呼吸苦を生じることがあります。また、全身に血液が十分送られない場合には心不全を生じることがあります。

症状；動悸、息切れ、呼吸苦、

検査方法；心臓エコー検査で行います。（当院では当日検査、診断が可能です）

治療；僧帽弁形成術を行い、自身の弁の壊れた部分を工作、修理し逆流を防ぎます。（当科では、新しい弁に取り替える弁置換術より、自身の弁を工作して作り直す弁形成術を多く行っています。ご自身の弁の方が異物は少なく、生理的に動く事で、心機能の保護にも繋がります）

僧帽弁閉鎖不全症



僧帽弁が壊れているため、収縮期に血液が左心室から左心房に逆流してしまいます。そのため、全身へいく血液が減ってしまい、左心不全となったり、左心房への逆流が多いことで左心房の圧が上がり、肺から血液が心臓に戻りづらくなり、肺の圧も上昇し、肺うっ血を生じることもあります。左心房に常にたくさんの血液があるので、左心房が拡大し、不整脈(心房細動)を生じることもあります。

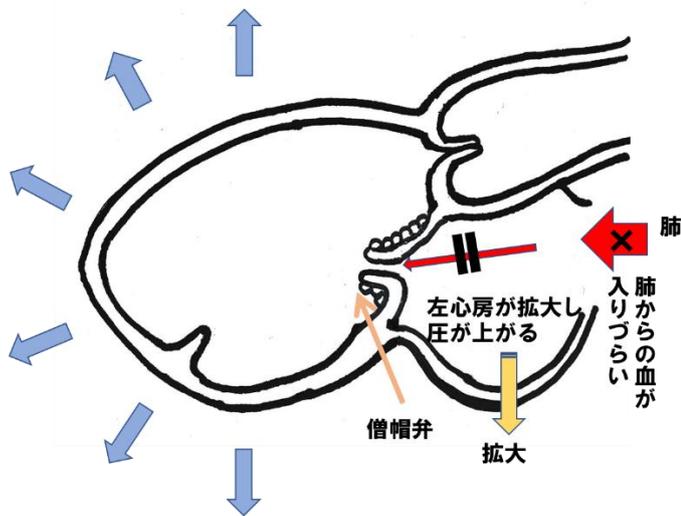
僧帽弁狭窄症；最近は少なくなりましたが、小児期のリウマチ熱に罹患したことで生じることが多い疾患です。僧帽弁がうまく開かず左心房から左心室へ血液がうまく送り出されないため、左心房の圧が上がり、肺から血液が入ってきづらくなります。また左心房の壁は薄いため、拡大してきます。肺から左心房に血液が流れないため、肺がうっ血し、呼吸がきつくなったり、左心房が拡大することにより不整脈を生じたりします。

症状；息切れ、呼吸苦、不整脈(期外収縮、心房細動等)

検査方法；心臓エコー検査で行います。(当院では当日検査、診断が可能です)

治療；僧帽弁置換術を行い、新しい弁に取り替えます

僧帽弁狭窄症
拡張期



僧帽弁の口が開かないため、左心房から左心室へ血液がうまく流れません。
そのため、全身へいく血液が減ってしまい、左心不全となったり、左心房への逆流が多いことで左心房の圧が上がり、肺から血液が心臓に戻りづらくなり、肺の圧も上昇し、肺うっ血を生じることもあります。
左心房に常にたくさんの血液があるので、左心房が拡大し、不整脈(心房細動)を生じることもあります。